

薬学系大学生の英語学習に対する意識： 学部生を対象とするアンケート調査から

スミス山下朋子

Japanese Pharmaceutical Students' Attitudes toward English Learning: Survey Results from One University

Tomoko Yamashita SMITH

Osaka University of Pharmaceutical Sciences, 4-20-1, Nasahara, Takatsuki, Osaka 569-1094, Japan

(Received October 14, 2011; Accepted December 1, 2011)

A survey on English was conducted at Osaka University of Pharmaceutical Sciences in order to learn about the students' attitudes toward English and their needs in English education. The results show that 1) many students are not confident with their English ability, 2) Almost all the students feel they need to study English, 3) Many of the students would like to study English for purposes related to their profession.

Key words —Survey, English learning, ESP (English for Specific Purposes)

1. はじめに

一般的に、理系の学生は英語を苦手と感じている者が多いと考えられている。¹「第1回 中学校英語に関する基本調査」によると、²小学校で英語を経験していても、6割の中学生が「英語を苦手と感じている」としており、日本人の多くが英語を苦手だと感じているのかもしれない。では本学の学生はどのように感じているのだろうか。学生の実態を測る第一歩として1, 2年次生対象とし、英語学習に関するアンケート調査を実施した。回答結果に基づき、学生の英語学習に対する意識やニーズを分析した。

2. 調査方法

アンケート調査は大阪薬科大学薬学部³に所属する1, 2年次生を対象とした。2011年度前期に筆者が担当した「英語1」及び「英語3」の4クラスの受講生にアンケート回答を依頼し、1年次生

72名、2年次生68名、計140名の学生から回答とデータ利用の承諾を得た。

調査時期は2011年4月初旬で、各クラスの初回授業の時間に質問紙を配布し、各受講生に回答してもらった。アンケートの質問項目は以下のような内容である。

- 1) 海外滞在・在住経験について
- 2) 英語の好き嫌いについて
- 3) 英語が得意か不得意かについて
- 4) 英語学習の必要性について
- 5) 伸ばしたい英語のスキルについて
- 6) 英語の学習の動機について

3. 結果と考察

以下にアンケートの回答の集計結果と考察を述べる。結果は全体の傾向を示す他に、学年別2グループに分け、カイニ乗検定を用いて比較し(Excel使用)考察を行った。

1) 海外滞在・在住経験について

まず、海外での滞在期間であるが、1年次生と2年次生でほとんど差が見られなかった。全体的に見ると、約半数が「滞在なし」で、「旅行程度」が36%であり、両者で計84%となった（表1参照）。

2) 英語の好き嫌いについて

次に、英語が好きか嫌いかという質問に対し

ては、全体的に見ると、「ふつう」が44%で最も多かった。「大好き」、「好き」とポジティブな回答をした協力者の合計は26%であったのに対し、「好きではない」、「嫌い」とネガティブな回答をした協力者の合計は30%と同じような割合であった（表2参照）。

また、図1に示したように、1年次生と比べて、2年次生の方が「嫌い」と回答した者が多かったが、統計的には有意差は出なかった。

表1 海外での滞在期間

Q：海外に行ったこと、住んだことがありますか。

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1) 海外滞在なし	35	49%	32	47%	67	48%
2) 旅行程度	23	32%	28	41%	51	36%
3) 1か月未満	9	13%	6	9%	15	11%
4) 1か月～2か月未満	2	3%	2	3%	4	3%
5) 2か月～6か月未満	0	0%	0	0%	0	0%
6) 6か月～1年未満	0	0%	0	0%	0	0%
7) 1年以上2年未満	1	1%	0	0%	1	1%
8) 2年以上	2	3%	0	0%	2	1%
合計	72		68		140	

表2 英語が好きか

Q：英語が好きですか。

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1) 大好き	0	0%	3	4%	3	2%
2) 好き	19	26%	15	22%	34	24%
3) ふつう	31	43%	30	44%	61	44%
4) 好きではない	15	21%	8	12%	23	16%
5) 嫌い	7	10%	12	18%	19	14%
合計	72		68		140	

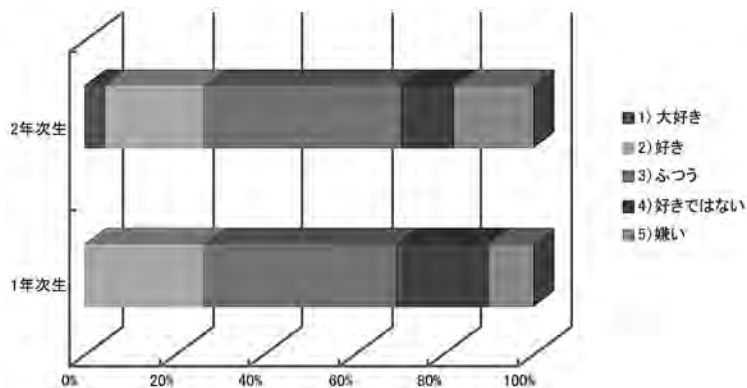


図1 英語は好きか

3) 英語が得意か不得意かに関して

英語の能力に自信があるかどうかの質問に対しては、1, 2年次生で差は見られなかった。「かなり得意」と答える協力者が一人もいなかった。また、「まあまあ得意」と答えた協力者は全体の10%

程度で、「ふつう」、「あまり得意でない」、「苦手」と答えた協力者がそれぞれ約30%程度であった。「あまり得意でない」、「苦手」と答えた協力者の合計は60%となり、半数以上が英語の能力に自信をもっていないことが分かる(表3, 図2参照)。

表3 英語の能力に自信があるか

Q: 英語の能力に自信がありますか。

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1) かなり得意	0	0%	0	0%	0	0%
2) まあまあ得意	6	8%	8	12%	14	10%
3) ふつう	21	29%	21	31%	42	30%
4) あまり得意ではない	25	35%	20	29%	45	32%
5) 苦手	20	28%	19	28%	39	28%
合計	72		68		140	

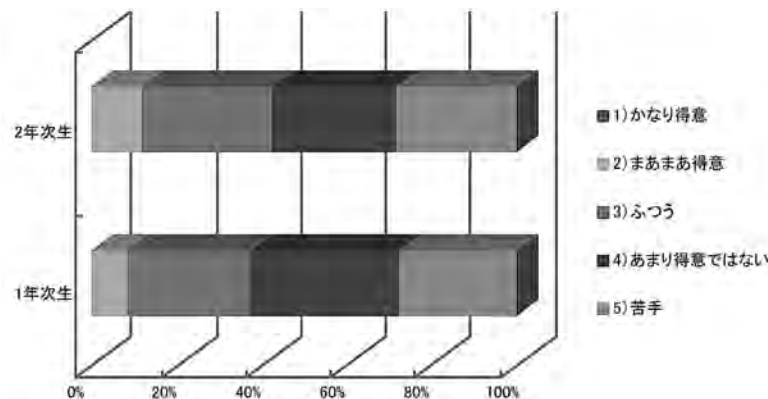


図2 英語の能力に自信があるか

4) 英語学習の必要性について

英語が必要かという問いには、ほぼ全員(99%)が必要だと回答した。調査協力者は、英語の好き嫌いや苦手意識には関係なく、必要性があると考えていることが分かる(表4, 図3参照)。1年次生と2年次生では差が見られ、1年次

生の方が「とても必要」と考えている者が46%に対し、2年次生は28%である。逆に、「必要」と回答した者は1年次生では53%であったのに対し、2年次生では71%となった。必要性を強く感じているのは1年次生だということが分かった(有意差有り。P<.05)。

表4 英語学習の必要性

Q: あなたにとって英語の学習が必要だと思いますか。

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1) とても必要	33	46%	19	28%	52	37%
2) 必要	38	53%	48	71%	86	61%
3) あまり必要ではない	1	1%	1	1%	2	1%
4) 必要とは思わない	0	0%	0	0%	0	0%
合計	72		68		140	

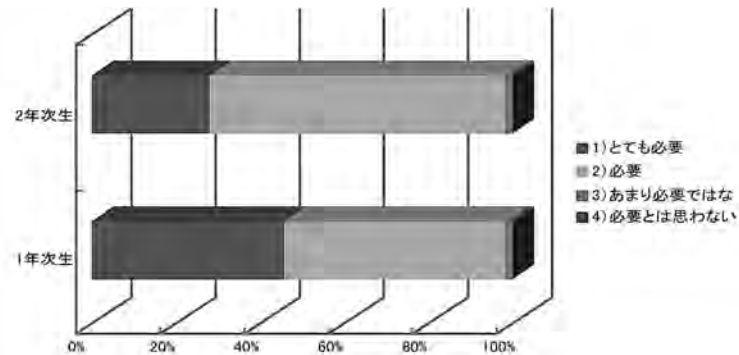


図3 英語学習が必要か

英語の学習が必要だと考える場合は、自由記述でその理由を回答してもらった。結果は以下の通りである。「社会的に必要だから」、「グローバル化された現在社会には必要だから」、「英語は世界共通言語だから」などという外的要因から必要性を感じている者が最も多かった（全体の36%）。その次に多かったのは、「仕事・就職のため」（18%）、「外国への興味」（17%）、「学業のため」（16%）であった（表5参照）。これら3つは内的要因であり、英語学習が自分自身にプラスになるものと考えていることが分かる。ごくわずかに「TOEICなどの資格取得のため」という回答も含まれた。全体的に漠然と「社会で必要とされて

いる」と回答する者が多かったのに対し、TOEICなどの具体的な理由を記述した者は少なかった。これは、興味深い結果である。今回の調査では、調査協力者がまだ学部1、2年次生で、英語学習に関する知識を多く持っていないため、具体的な理由の記述が少なかったのかもしれない。また、図4に示したように、1年次生と2年次生を比べると、「社会的必要性」と回答した者が1年次生では47%であったのに対し、2年次生では25%となっており、2年次生の方が内的要因を記述している割合が高いことは明らかである。表6のように外的要因と内的要因の2項目に分類し、学年別に比較すると有意差がでた（ $P < .01$ ）

表5 英語学習が必要な理由

Q：英語学習が必要な理由（自由記述）

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
社会的必要性、グローバル化のため	34	47%	17	25%	51	36%
仕事、就職のため	10	14%	15	22%	25	18%
外国への興味(旅行・交流・情報収集)	6	8%	18	26%	24	17%
学業のため	9	13%	13	19%	22	16%
資格取得のため (TOEIC など)	2	3%	2	3%	4	3%
苦手だから克服したい	4	6%	0	0%	4	3%
回答なし	7	10%	3	4%	10	7%
合計	72		68		140	

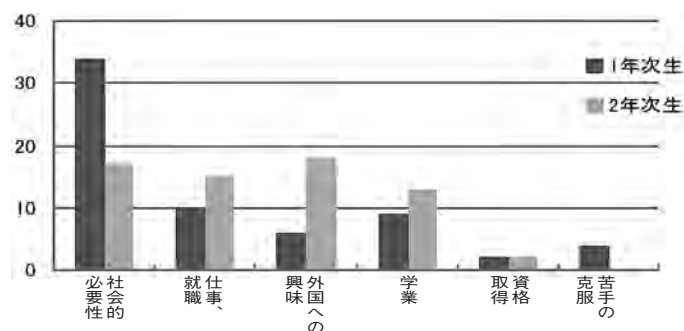


図4 英語学習が必要な理由（自由記述）

表6 外的・内的要因別

	1年次生		2年次生	
	度数	パーセント	度数	パーセント
外的要因（社会的必要性，グローバル化のため）	34	52%	17	26%
内的要因（仕事，就職のため，外国への興味，学業のため，資格取得のため，苦手だから克服したい）	31	48%	48	74%
合計	65		65	

5) 伸ばしたい英語のスキルについて

英語のスキルの中で伸ばしたい項目を複数回答で選択してもらった。特にない場合の選択肢も含まれていたが，それを選んだ協力者は2%以下にとどまった。全体的に見ると，最も伸ばしたいスキルは「リスニング」で，「スピーキング」，

「リーディング」，「薬学英語」と続いた。「ライティング」と「文法」はあまり求められていないようである（表7参照）。図5に示したように，1，2年次生を比べると，2年次生は1年次生よりも「リーディング」と「薬学英語」を学習したいと望んでいる者が若干多いことが分かる。

表7 伸ばしたいスキル

Q：自分で伸ばしたいと思っているスキル等がありますか。（複数回答可）

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1) リスニング	44	31%	45	26%	89	28%
2) スピーキング	32	22%	34	19%	66	21%
3) リーディング	19	13%	35	20%	54	17%
4) 専門の薬学英語	16	11%	26	15%	42	13%
5) ライティング	15	10%	19	11%	34	11%
6) 文法	15	10%	15	9%	30	9%
7) 特にない	3	2%	2	1%	5	2%
合計	144		176		320	

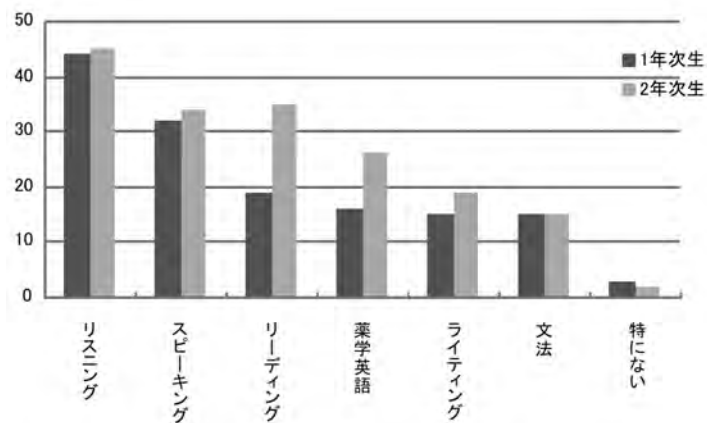


図5 伸ばしたいスキル

6) 英語学習の動機について

語学学習の動機は様々な区分に分けられるが、今回は先行研究の結果をもとに日本人大学生が多く³ 選びそうなものを選択肢とした。英語学習の動機^{4,5,6} についての問いに対し「特にない」と回答した協力者は1～3%程度で、ほとんどの協力者が具体的な選択肢を選んだ。動機に関しては1, 2年次生で差が見られなかった。全体的に見ると、「将来仕事に役立てるため」という回答が最も多く、24%を占めた。次に多かったのは3項目で、「専門の勉強のため」,⁷ 「TOEICなどの資格や検定試験のため」,⁷ 「海外旅行」がそれぞれ16～17%で

あった。「仕事」,⁷ 「学業」,⁷ 「資格・検定試験」は「職業・専門性志向」の学習動機であり、本学の学生の動機としては最も高いことが分かった。反対に「外国のことを学んだり、知識を得たりするため」や「英語学習によって達成感や満足感を得ることができるから」という「自己向上志向」の動機の項目を選択する学習者は少なかった(表8参照)。先行研究によると、一般大学学生と医科大学学生と比較して、前者の方が「自己向上志向」が高く、後者では「職業・専門性志向」の学習動機が高くなっている。本学でも後者と同じ状況となっていることが分かった。

表8 英語学習の動機

Q: どうして英語を勉強したいですか。○をつけてください。(複数回答可)

	1年次生		2年次生		全体	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
将来仕事に役立てるため	59	26%	42	22%	101	24%
専門(薬学)の勉強に役立てるため	44	19%	30	15%	74	17%
TOEICなどの資格や検定試験のため	34	15%	35	18%	69	16%
海外に旅行したいため	32	14%	34	17%	66	16%
海外の映画や音楽が好きだから	18	8%	17	9%	35	8%
外国のことを学んだり、知識を得たりするため	22	10%	13	7%	35	8%
英語学習によって達成感や満足感を得ることができるから	7	3%	7	4%	14	3%
外国人の友人がほしいため	4	2%	8	4%	12	3%
留学したいため	6	3%	4	2%	10	2%
特にない	2	1%	5	3%	7	2%
その他(自由記述)	0	0%	0	0%	0	0%
合計	228		195		423	

4. まとめ

本学の1, 2年次生対象に英語に関する意識調査を実施した。結果として明らかになった全体的な傾向は以下の3点である。

- 1) 嫌いと答える協力者はそれほど多くなかったのに対し、苦手と答える学生の割合が高かった。全体的に見て、英語を不得意と考えている学生が多いことが分かった。
- 2) ほとんどの協力者は、英語学習を必要だと考えている。

- 3) 英語学習の動機として「職業・専門性志向」の動機が高いことが分かった。英語を学業、資格、将来の仕事に生かしたいということである。

以上の結果から示唆できることは、教室活動に苦手意識をできるだけ取り除けるような工夫を取り入れることと、より専門性の高い英語教育を提供するという点である。近年、理系学生対象の英語クラスでは、そのような試みが実践されつつある^{8,9,10}。また、学部等で大規模に専門英語教育(ESP)を試みている大学もある。例えば、東京大学教養英語学部による理系英語プログラム¹¹や立

命館大学のプロジェクト発信型英語プログラムが¹²挙げられる。

今回の調査では、1, 2年次生の一部の学生を対象に横断的な分析も試みたが、本学の学生にあったプログラムを検討するため、今後は、1, 2年次生だけではなく、1～6年次生までの横断的調査も望まれる。また、同じ学生が学年が上がるにつれ、どのように意識を変化させていくかを探る縦断的調査も必要であろう。

薬学教育が6年制になって、英語教育の目的や到達目標値が再考されてきたが、¹³今後学生だけではなく、さまざまな視点で薬学系大学生のための英語教育について考えていきたい。

参考文献

- 1 ALC (2008) 特集「理系的英語学習のススメ」
<http://www.alc.co.jp/eng/feature/080725/index.html>
- 2 ベネッセ教育開発研究センター (2009)
http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/seito_soku/index.html
- 3 堀野緑, 市川伸一 (1997) 「高校生の英語学習における学習動機と学習方略」 *Japanese Journal of Educational Psychology* 45, pp.140-147
- 4 久保信子 (1997) 「大学生の英語学習動機尺度の作成とその検討」 *Japanese Journal of Educational Psychology* 45, pp.449-455
- 5 佐藤博晴, 佐藤夏子 (2008) 「本学学生の英語学習に対する動機付けと学習行動に関する調査」『山形県立米沢女子短期大学紀要』44, pp.25-33
- 6 鈴木渉・Adrian Leis・安藤明伸・板垣信哉 (2011) 「大学生の英語学習に対する動機づけ調査－Dörnyei の L2 motivational self system に基づいて－」『宮城教育大学国際理解教育研究センター年報』6, pp.34-43
- 7 浅野志津子 (2002) 「学習動機が生涯学習に及ぼす影響とその過程－放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から－」『教育心理学研究』50, pp.141-151
- 8 土屋麻衣子 (2010) 「英語が苦手な理系学生を対象としたワークショップ型英語授業の効果」『工学教育』58-3, pp.44-50
- 9 西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃 (2010) 「工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業」『工学教育』58-3, pp.12-17
- 10 野口ジュディー (2010) 「ESP でなにができる?」『工学教育』58-3, pp.9-11
- 11 トム・ガリー「東京大学教養英語学部による理系英語プログラムの試み」2010年度大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 第3回講演会 (2011年3月12日)
- 12 鈴木佑治「立命館大学生命科学部・薬学部 (2010)「プロジェクト発信型英語プログラム－Project-based English Program」の理論的基盤と実践」『立命館高等教育研究』10, pp.43-61
- 13 末広美樹 (2005) 「6年制導入後の薬学英語教育の目的・必要性・到達目標値の明確化へ向けて：その第1歩：薬剤師に必要な英語力の認識 (英語教育の到達目標－その基準を求めて－)」大学英語教育学会 (JACET) 全国大会要綱 44, pp.150-151